



対馬丸 通信

発行：(公財)対馬丸記念会

発行人：高良 政勝

編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成30年12月10日発行 第37号

奄美大島追加調査（聞き取り）報告

対馬丸記念館学芸員 嘉数 聡・宇根一磨

対馬丸事件の発生から1週間後、多くの犠牲者とわずかな生存者が漂着した奄美大島。対馬丸に関する深い大島ですが、遠地のため、記念館として十分な調査が行なえていない地域もあります。去る8月25日（土）から27日（月）に、主にこれらの地域を訪ね、今後の館内展示、説明に活かすため、宇根一磨、嘉数聡の両学芸員が資料収集（関連する場所の写真撮影）、関係者聞き取り調査を行いました。以下、その報告です。

今回、両学芸員が調査にあたった地域は、宇検村屋鈍、阿室、平田、久志、宇検、大和村戸円、名音、今里といった集落（区）でした。第26回特別展をまとめた『奄美大島と対馬丸』（以下、『奄美』）掲載の福永隆次さんの調査記録と、写真（2005年調査当時）を比較・参考にしながら進めました。

8月25日（土）

宇検村での撮影調査

当日は、屋鈍、阿室、平田区の写真撮影に行きました。

2005年当時、ゲートボール場になっていた平田区の遺体埋葬地は、現在、集落の共同墓地として使用されています。

阿室区では、手掛かりとなる写真と一致する風景が見つけれず、旧盆の折で共同墓地に墓参していた区の山畑さんという方に教えてもらい、写真に収めるこ



屋鈍区の海岸

とができました。この方は戦後生まれですが、親、先輩から対馬丸事件に関する話を聞いたことがあるとのことでした。「宇検村にある焼内湾は、潮流の関係で海の遭難遺体が流れつくことがたびたびあった。阿室区では、集落に血縁関係のない、身元不明の遭難遺体があった場合、野ざらしにせず無縁仏として埋葬する慣例がある。対馬丸事件で流れついたであろう遺体も、その考えに基づいて埋葬したと聞いている」とのことでした。

宇検区の西端、屋鈍区の犠牲者が流れついた場所も、写真に収めました。

この日の調査だけでも、実際に現地に行ってみて、お話を聴いたり、地理・地形を見なければ気が付かなかったことが多くあって、実地踏査の重要性を改めて認識しました。

8月26日（日）

中山昭二さん案内による大和村撮影・調査

この日は、はじめ大和村今里、名音、戸円区にある関連場所を、前大和村中央公民館館長、中山昭二さんの案内で撮影調査しました。中山さんいわく、「戦時中、東シナ海側の沖繩―九州間の航路では、対馬丸以外にも数多くの船が撃沈され、船の積み荷や犠牲者の遺体が、大和村の海岸に漂着することがあった」とのことです。すなわち、当時「奄美大島に漂着した遺体＝対馬丸事件の犠牲者」と確実に言えるものではなく、70年以上経過した現在、判断が難しい現実も認識させられました。

今里区では、遺体を埋葬した通称「昔墓」があった場所を撮影しました。

名音区の長浜は、潮の満ち引きの関係で、当日は行くことが出来ませんでした。18名あまりの遺体が漂着していた場所です。加えて、周辺の名前をもたない浜にも、子どもと思われる腐乱遺体が4体ほど流れつき、近くの洞窟に運び入れた、という調査記録も教えてもらいました。この遺体が対馬丸事件の犠牲者かどうかは判断ができないものの、今後、大和村教育委員会と調整がつけば、調査に入りたいと言っていました。

戸円での撮影・聴き取り調査

中山さんと別れ、戸円区で昼食を取ったお店の人から「川島栄志さんも、対馬丸についてお話できるのでは」との情報ももらい、自宅を訪ねると、急な訪問に聞らず、丁寧にお話してくれました。

「私は昭和13年生で、対馬丸事件の時は1年生だった。この頃から海が好きで、



川島宮志さんから貴重な証言が得られました

と言って、近くにあった石ころで骨を折り、壺に納めていた。」とのことでした。

戦後の遺族団の集骨作業に関する証言は、これまであまり聴いたことがなかったため、非常に興味深いものでした。

今里区での撮影・聴き取り調査

川島さんからの聴き取りを終えてから今里区へ戻り、当時国民学校生だった女性たち6名へ聴き取り調査を行いました。彼女たちは全員、救助・埋葬作業には携わらず、遠巻きに見ていた、親兄弟から伝え聞いた話の内容が主なものでした。「今里区の子どもが見た対馬丸事件」といえるものです。「埋葬作業は大人たちから「見るな」と止められた。今里区ではこういった漂着遺体は出来るだけ

戸円区近くの浜であるムエーヒジャによく釣りに行っていた。8月くらいだったと思う。カツオ漁のエサに使うキビナゴを捕りに行った、満漁丸と言う板付き船が、遺体をロープにくくりつけて戻って来た。船員の話しているのを聞くと、漁を終えて帰る途中、浮いている遺体を見つけたので、運んで来たらしい。区長の呼び掛けで人が集まり、5〜6名で埋葬作業をしていた。戦争が終わって何年かしてから、沖繩から遺骨を引き取りに来ているのも覚えていた。その時も釣りをしていたので、場に居合わせた。火葬場で使うような骨壺をひとつ持って、埋葬地から遺骨を掘り出して壺に納めていた。脚の部分と思う骨は長くて壺に入れられず、「ごめんささい」



今里区では6人の婦人たちから証言を得ることができました

見せないようにしていた（山田初乃さん、久永タツノさん）」

「遺体は長く海水に浸っていたから、つかむと皮膚が剥がれてしまったようだ。収穫したイモを入れるアンピラ袋というものを2枚重ねて、その上に遺体を寝かせ置き、袋の四隅を持つようにして引き揚げる作業をしていた（中元静好さん）」

「戦時中だった当時、今里区に残っていた男性は少なかった。救助や埋葬作業をしていたのは、徴兵検査で乙判定を受け、徴兵を見送られていた人たちだった。一番若い人でも30代くらいだったと思う（蘇畑多佳子さん、蘇畑ナツ子さん）」

「昔墓」は、風が強く当たり、川の流れる場所も近くにあってから、遺体が流されないように、山すそに埋葬場所があった（溜畑マサエさん）」といったお話が聴けました。

また、「沖繩の人は仏様を大事にする。戦争が終わったら必ず骨を引き取りに来る。合葬でなく個別葬にしない」と助言をした、蘇畑豊彦さんのお父さんについても質問を投げると、

「豊彦さんのお父さんは、蘇畑藤太郎さんといった。藤太郎さんが沖繩の人たちの考え方に詳しくあったのは、お兄さんにあたる蘇畑宮憲さんの影響があったと思います。」

う。宮憲さんは、戦前、沖繩島に住み込みで働いていたことがあったらしい。藤太郎さんは宮憲さん

から沖繩での生活や、沖繩の人たちの信仰、先祖観を聴く機会があつて、そういった知識があつたから、遺体を個別葬にするように、と助言したと思う（蘇畑多佳子さん）」とのことでした。

今里区の女性たちは、子供時分に見た光景、戦後の状況などをよく覚えていて、今まで記録していなかったことなども聴くことが出来ました。

宇検村藤主幹による村内案内

大和村から宇検村へ移動し、村役場職員の藤貴文主幹に村内案内してもらいました。宇検区、久志区の集落内など、道に不慣れな学芸員だけでは行くことが難しい場所を中心に案内してもらいました。生存者を治療した久志診療所跡地、生存者を収容した養蚕試験場跡地、生存者と遺体が流れついたフノシ海岸などを見せてもらいました。また、峰田山公園にも案内してもらい、600mあまりの標高から、宇検村を見下ろす様子も、焼内湾を囲むように、枝手久島や屋鈍区などを見ることが出来る、今回調査して写真撮影してきた場所と場所の距離がひと目で分かり、実に広い範囲に生存者、遺体が漂着したということを実感できました。

8月27日（月）

宇検村表敬訪問

最終日には宇検村教育委員会や村役場へ表敬訪問に行きました。村教育委員会によると、村史編さん事業の一環で、聴き取り調査を行う予定があるとのことでした。新しい証言が得られるかもしれません。慰霊碑の建立や、村内学校における学習発表会等で対馬丸を題材にした劇を行うなど、対馬丸事件を村の歴史として捉え、継承していく宇検村の姿勢を大変ありがたく思いました。

今回の調査で、報告者（嘉数）をはじめて奄美大島を訪れました。対馬丸事件と奄美の関係に加えて、奄美の人びとの慣例、考え方なども知る機会を得て、とても有意義な時間となりました。今後、宇検村や大和村、ひいては奄美とのつながりを大切ににあたため、未永く続いていく絆にしていきたいと思えます。



峰田山公園より望む焼内湾

対馬丸の子どもたちも親しんだ校歌 高らかに

那覇市旧八校校歌集 記念館に贈られる

平成30年7月28日(土)

島袋文雄さん、久場兼弘さん、阿嘉宗徹さんより、「那覇市旧八校校歌集」CDが記念会へ贈呈されました。

校歌集は、戦前沖縄の旧制中等、高等女学校の校歌集を島袋文雄さんが発刊したことをきっかけに、尋常小学校(国民学校)の校歌の音源資料、楽譜が残されていないことから、「対馬丸で犠牲になった子どもたちが通っていた那覇市旧八校の校歌を集め、慰霊祭や館内で流してはどうか」と、遺族・阿嘉宗徹さんからの提案を受け、音源制作がはじまりました。

阿嘉さん、当時の校歌を歌える卒業生の方々、つしま丸児童合唱団の伴奏及び指導の先生の手によって形づくられ、合唱団の子どもたちの歌声でいのかを吹き込み、対馬丸の子どもたちが親しんだ校歌が、現在によみが

えりました。

贈呈式にはつしま丸児童合唱団による天妃校・甲辰校の校歌が披露されました。外間常任理事は「記念館に、対馬丸の子どもたちの声が戻って来たよう。喜びや楽しみの声が聴こえてくるようでとても嬉しい。協力してくれたみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです」とあいさつしました。



校歌の収録に尽力いただきました島袋文雄さんに感謝状を贈呈いたしました(写真中央)

『文化は平和なればこそ』

豊平峰雲さんより「平和」の書が贈られました

平成最後の終戦記念日の日、沖縄県書作家協会木筆會会長豊平峰雲さんが揮毫した書「平和」が、記念会に寄贈されました。エジプトで出会ったパピルス紙に、古代文字のひとつである篆書体で、「平和」と記されています。贈呈式場で、豊平さんは『書』を書くことは文化。文化は、平和な世界でないと育まれない。のびのびと文化に身を入れられるように、平和な世界実現の一助になれば』と、書に込められた想いを語りました。書は8月21日に、記念館1階の平和の広場に掲示されました。対馬丸の子どもたちが望んでやまない平和。それを形にしたこの書が、記念館でいつまでも輝けるような世界が続くように、努めていきたいと思っています。



書を掲げる、豊平峰雲木筆會会長と高良政勝理事長／平和の広場に掲示しました

特集 平成30年対馬丸慰霊祭

8月22日 於小桜の塔

8月22日 広島県

「対馬丸乗船遭難学童の慰霊祭」
於広島市比治山陸軍墓地内
「船舶砲兵部隊慰霊碑」

那覇市旭ヶ丘公園にある小桜の塔において、対馬丸慰霊祭が厳かに執り行われました。

冥福を祈り、合掌いたしました。慰霊祭の場において、先の7月28日に島袋文雄さんから有志により対馬丸記念会に贈呈された「那覇市旧八校校歌集CD」の中から、天

妃国民学校の校歌が合唱団により歌い紡がれ、対馬丸の子どもたち

遺族、来賓ほか、四百余名が参列し、恒久平和の誓いと御霊のご

馬丸記念会に贈呈された「那覇市旧八校校歌集CD」の中から、天



高良政勝理事長が遺族を代表して弔辞を捧げました



対馬丸に関する慰霊塔・碑は全国に5ヶ所(県内2ヶ所、県外3ヶ所)確認されていて、その内もつとも北に位置するのは、広島県の比治山陸軍墓地内にあるものです。墓地内の船舶砲兵部隊慰霊碑に、「対馬丸乗船 沖縄疎開学童之霊」の文言が刻まれています。今夏、この船舶砲兵部隊慰霊碑にて、対馬丸の慰霊祭が行われました。

元船舶砲兵で海洋船舶画家の上田毅八郎氏の描いた対馬丸のパネルも紹介されました。8月末に対馬丸記念会はこのパネルの寄贈を受け、対馬丸模型の台座部分への、揭示準備を進めています。

この慰霊碑にある「対馬丸」(碑文ま)の刻字は、元船舶砲兵の故・吉田董夫さんの発案によるものと考えられています。吉田さんは対馬丸に乗船した船舶砲兵の生存者で、生前、小桜の塔慰霊祭への参列、記念館の展示(縄ハシゴ、救命イカダ)に関する証言などでお力添えいただきました。

今度の慰霊祭は、慰霊碑の文言を発見し、記念会へ知らせられた広島経済大学岡本貞雄教授のゼミナールが主催となって行われました。広島県での対馬丸慰霊祭は初めてのことで、小桜の塔の慰霊

8月26日 於宇検村對馬丸慰靈之碑

昨年3月に宇検村船越海岸に建立され、8月に宇検村主催の慰靈祭が行われ、11月に故翁長雄志沖縄県知事の参拝・献花を受けた「對馬丸慰靈之碑」。今年も、那覇市の小桜の塔における慰靈祭から明けて、直近の日曜に当たる8月26日に宇検区の慰靈祭が執り行われました。宇検区民や元田信有宇検



帛辞を捧げる、津田●●宇検区長（左）と元田信有宇検村長
慰靈祭には宇検区民や●●小学校の児童ら、関係者40人あまりが参列しました。



犠牲者の慰靈と事件を語り継ぐ決意も新たに、献花する●●小学校の児童代表。

朝一番に参拝・献花をし、慰靈碑に手を合わせて参りました。その折に津田宇検区長にお話を伺うと、慰靈祭の持ち方について村と区で協議した結果、今年度より①宇検区が主催すること、②小桜の塔の慰靈祭を終えて直近の日曜日に催行すること、③毎年開催することなどが決定したとのことでした。

9月8日 悪石島 對馬丸慰靈祭

於鹿兒島県十島村「悪石島對馬丸慰靈碑」



慰靈祭には、悪石島小中学校児童のほか、島の人たちの3分の2以上の約50人に焼香いただきました



悪石島小中学校の伝統となった、あおぞら活動で、慰靈碑を清掃する児童達



慰靈祭後参列者全員で記念撮影

1962年に建立され、以来、悪石島の島民によって守られてきた慰靈碑で慰靈祭が行われてきた。悪石島小中学校主催のこの慰靈祭。台風の影響が多い今年、例年より2週間遅れての実施となりました。島人口の3分の2以上にあたる約50名が参加し、5・6年生の児童が「この島に住む島民として、次の世代へつないでいきま

す」と對馬丸事件の継承を誓い、犠牲者へ哀悼の意を表しました。慰靈祭当日も天候不良のため、21日（金）、改めて児童生徒による慰靈碑周辺の清掃「あおぞら活動」が行われ、慰靈周辺が綺麗になりました。



つしま丸児童合唱団便り



2018. April ~ 2018. October

○4月14日(土)

那覇市子供会育成連絡協議会表彰式

同協議会において、英語あそびの指導者の春山幸子先生、平良直美先生が育成者の部で、平成24年の結団時より団をひっぱり、3月で団員卒業となった石川悠乃さんが子供の部で、表彰されました。

○4月28日(土)

小桜の塔・こいのぼり掲揚

5月5日の子供の日に前に、支援者の皆様から頂戴いたしました鯉のぼりを、つしま丸児童合唱団の子供たちと一緒に掲揚しました。空を舞う鯉のぼりを見ながら、全員でこいのぼりの歌を奉納合唱しました。

○5月26日(土)

平成30年度つしま丸児童合唱団結団式・歓迎式

新しい団員5名を迎え、今年度の結団式と歓迎式を行い、7年目の活動に向けて心を一つにしました。(10月31日現在の団員数は29名)

○6月23日(土)

平成30年沖縄全戦没者追悼式

慰霊の日に沖縄県平和祈念公園(糸満市摩文仁)にて執り行われた「平成30年沖縄全戦没者追悼式」に参列し、献花の時間に3年連続で合唱を行いました。「いのちの

歌」「月桃」「ねがい」「地球星歌」(笑顔のために)」「ピリッブ」を

那覇少年少女合唱団のみならず一緒に、平和への想いをのせて歌いました。

○8月22日(水)

平成30年度対馬丸慰霊祭

小桜の塔で執り行われた「平成30年度対馬丸慰霊祭」で、那覇青少年舞台プログラムの生徒たちと一緒に、「小桜の塔の歌」「海の子守唄」「天妃尋常高等小学校校歌」「ふるさと」を歌い、参列した遺族や関係者へ平和の心を届けました。

○10月13日(土)

ハロウィン

子供たちは仮装をして活動に参加し、「Trick or Treat (トリック・オア・トリート)」と言って保護者や先生方からお菓子をもらい、パーティーをして楽しみました。

○10月28日(日)

平成30年那覇市戦没者追悼式

那覇市若狭海浜公園内にある「恒久平和モニュメントなぐやけ」にて執り行われた、「平成30年那覇市戦没者追悼式」に昨年に引き続き参列し、献花の時間に、那覇少年少女合唱団と共に「涙そうそう」「ねがい」「いのちの歌」「君をのせて」「ふるさと」「たとえば空」を合唱しました。



平成30年度沖縄全戦没者追悼式で来賓献花時に今年も美しい歌声を響かせました
指揮 高里千穂子、ピアノ伴奏 長嶺かんな



合唱団の子供たちの健やかな成長と、対馬丸学童の鎮魂を込めて、小桜の塔に今年も鯉のぼりが舞い上がりました



那覇市子供会育成連絡協議会で表彰された、春山幸子先生(右端)、平良直美先生(左端)と3月まで団員として活躍した、石川悠乃さん(右)、上原一路さん(中央)、照屋優姫さん(左)



那覇市戦没者追悼式でも大役を果たしました



お楽しみ会の一つ、ハロウィン・パーティー



対馬丸慰霊祭での合唱後、3月まで団員として活躍した、花岡光君と後を継いで団員として頑張る蓮兄弟から、●●で貯めたお金が寄付金として高良理事長へ贈呈されました

遺族訪問聴き取り調査を行っています

犠牲者の記録を活字に残す調査です、ご協力をお願いいたします



たあと、事件犠牲者に寄り添ってもらえらるるよう、犠牲者のひととなりをお聞き取り、記念館の展示に活かしていただけるよう調査を行っています。

現在、対馬丸記念館では、犠牲者のお名前、わずかに遺された遺影、遺品などを展示しています。しかし、犠牲になった人びとの好きなこと、得意なこと、生前のエピソードなど、そのひととなりを知ることでできる展示は、ほとんどありません。

「おじいちゃん、おばあちゃんのおきょうだいはこんな子だったんだね」と、遺族の世代交代を迎え

事件から74年の年月が流れ、犠牲者のひととなりを知っている、聞いたことがある方も少なくなっています。調査の際には、事前に記念館より電話連絡、日程調整がありますので、記念館の調査にご理解とご協力ください。よろしくお願いいたします。

宮腰光寛内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方政策担当） 小桜の塔献花および記念館視察

平成30年10月9日

宮腰光寛大臣が小桜の塔および記念館視察に訪れました。小桜の塔へ献花の後、外間常務理事より説明を受け、塔に隣接した刻銘板もつぶさに見学し、館内展示においても、大臣が対馬丸について質問をする場面もありました。

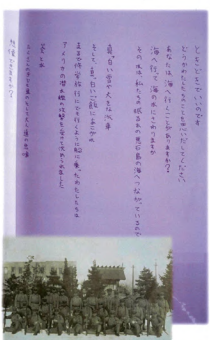


対馬丸西沢武雄船長 長野県 中かりの地の人びとが本に

沢船長のひととなりや経歴についてもまとめられており、貴重な資料を頂きました。

このたび、長野県安曇野市豊科の下鳥羽地区有志でつくる「下鳥羽の古文書を読む会」より、『太平洋戦争時の下鳥羽の記憶―対馬丸と西沢船長―』の冊子が、記念会に贈られました。

西沢武雄対馬丸船長は、犠牲者まとめ、特集誌を組みました。西



大正洋戦争時下の下鳥羽の記憶―対馬丸と西沢船長―
下鳥羽公民館・下鳥羽の古文書を読む会

イベント・行事

□ 5月10日

平成30年度第1回那覇市内全小

中学校平和教育担当者研修会

□ 8月2日

平成30年度那覇市及び浦添市小

中学校合同平和教育研修会

修会はその那覇市と浦添市の共催となり、67名余の先生が参加しました。研修は、沖縄県平和祈念財団平田守主査による、「沖縄戦の特徴と教訓」と題した講話、浦添市港川自治会銘苅全郎会長と那覇市教育委員会池原鉄指導主事による、地域の体験者と児童をつなぐ取り組み事例紹介、先生同士

のグループディスカッションで進行了ました。参加した先生から「港川自治体の実践や、日曜の授業参観を活用した親子で学ぶ平和教育、子どもたちの生活でできる【いじわる言葉をやめよう】【優しい声かけ運動】など、平和につながる第一歩の取り組み例を共有できた」といった声もあり、とても有意義な会になりました。

□ 6月6日
平成30年度第1回通常理事会

記念館にて第1回通常理事会が行われました。会では事業、決算報告が行われたほか、記念館館長の解任・任命、同事務局長の任命等議案が出され、次の通り承認されました。

館長 高良政勝(理事長/兼任)

事務局長 鉢嶺清典
解任 宮城清志/館長
(順不同・敬称略で掲載)

□ 6月20日

平成30年度定時評議員会

□ 6月23日

平和の詩朗読会2018 (那覇青少年舞台プログラム)

那覇青少年舞台プログラムによる朗読劇が、慰霊の日に合わせて今年も催行されました。記念館正面階段スペースを余すことなく使ったパフォーマンスに、来館者や通りかかった人たちが拍手を送りました。来館者の中には、午前・午後の催行を観覧する人もいて、団員の平和への想いをひしと受け止めていました。

□ 7月15日
沖縄県主催 第1回対馬丸平和学習交流事業事前学習受け入れ

県主催で8月に行われた、第1回対馬丸平和学習交流事業への参加者を対象に、沖縄戦や対馬丸事件への知識を深めるため、事前学習を受け入れられました。(株)がちゆんの主導によるワークショップ、参加型演劇と合わせ、記念館学芸員による館内の説明及び応答形式による平良啓子さんの講話を行い、参加者のみなさんに、対馬丸事件を学んでもらいました。

□ 8月15日~9月9日

第30回特別展

「かくして沖縄は戦場になった」

沖縄県平和祈念資料館よりパ

ネル資料200点を借用し、沖縄戦の前年、1944年に焦点をあてた特別展示を行いました。年表、写真、当時の新聞記事等で構成されたパネルで、観覧者の多くに沖縄の地上戦に至るまでの出来事、流れを学び、平和について考えてもらう機会となりました。

トピックス

□ 7月28日

旧那覇八校 校歌CD贈呈式

(本文3ページ上段記事参照)

□ 8月15日

「平和」の書贈呈式

(本文3ページ下段記事参照)

ご寄付

□ 4月3日 糸数裕子様

疎開時の引率指導で生存者の糸数様から犠牲児童の慰霊と、対馬丸記念館の平和活動支援にと百万円のご寄付を頂戴いたしました。先生のご意志に沿うよう使わせていただきます。

□ 8月22日

柴田一郎、たから歯科、座安勝憲・大島弘丈・尚軍様より慰霊祭において多額の寄付をいただきました。

□ 3月11日~9月25日

山城正子、嶋田玲子、謝花奈津子、廣瀬重之、仲田清一郎、刀根昭二六、我喜屋敏子、高良桂子、宮里依子、大森節子、道広良子、菓正継、翁長和子、上原レイ子、末吉桂太郎、佐々弘美、兼元和子、羽太勝子、酒居安佐子、渡口美子、福田道子、佐藤勝子、神谷嘉代子、斉藤幸江、坂本祐子、柴原智幸、平良輝子、宮城良枝、屋比久嘉光、近藤習子、土肥義胤、中田昌宏、松田きく、長田正明、亀田明子、阿部圭助、崎山真智子、外間邦子、河田真智子、加守田サチ、加守田美恵、新垣匡子、武田克彦・久美子、山口郷子、越智百合子、柴田一郎、ぶどうの木保育園、知念直満、松本和、嘉数昇明、比嘉幸子、又吉清子、崎山朝康、湧川秀子、真栄里勝枝、久保明世、真栄田世行、芳賀順雄、泊先寛顕彰会、玉城博江、當山健次、兵庫県遺族会、渡口真常、吉永小百合、宮城正子、知名定弘、松本勝幸、大竹貢、高良美代子、島袋侑哲、島袋則子、島谷敦子、太田恭子、島袋哲英、島袋誉之、甲斐真由美、勝村里美、都築さつき、島袋文雄、合原理子、沼口照千代、羽角淳一、高江洲清子、新川善哲、椰木勝義、玉那覇有健、宮城栄孝、駒村利美子、成田優、照屋保子、田中順一、真栄城嘉訓、比嘉恵子、村越千代子、酒光幸子、上原はつ子、川崎久子、藤原房子、友寄安子、大慧會教団 石倉寿一、高江洲春子、渡嘉敷初子、安次富百合子、比嘉いずみ、比嘉涼葉、斎藤義光、古座谷隆、慰霊祭(阿嘉宗徹、阿嘉広愛、安次嶺喜伸・紀美子、阿波根あさこ、新川昌子、池宮城紀夫、伊志嶺米美、石垣トミ、石倉康治、伊波カツ子、伊波達也、伊波博、上里千代子、上原トミ子、上原利恵子、内原貞子、大里剛・千代子、大湾朝明、嘉数八重子、嘉数加三、我部昌宏、喜瀬安一、宜名眞登喜子、金城千代子、金城由昇、具志八重子、国吉真太郎、幸地長昌、新里初子、平妙子、平良ツル、平良盛一、高良久子、澤岬昇、立津ツル子、玉城雄一、津波古敏子、當間淳子、當間嗣朝、渡久山久子、富村正、仲順幸子、仲宗根久子、仲宗根正、仲間輝夫、仲間初子、長嶺成悦、澄子、長嶺美代子、仲村清、中山きく、中山肖子、西原幸子、西原芳子、西原良信・ミドリ、新田信雄、浜崎盛久、早川尚江、比嘉正輝、比嘉利津子、比嘉常夫、東盛キヨ子、比屋定弘子、外間宏正、真志喜保、又吉正子、真玉橋光子・恵美子、宮城謙二、宮城壮成、宮城好子、宮里善一、宮里八重子、屋比久小夜子、山城とみ子、山入端真弓、與古田清正、湧川秀子、新里律子、新垣美恵子、儀間敬子、金城美恵、長堂嘉一、花岡翔・蓮、島袋完漢、島袋早希、石坂美砂、安里典子、中山幹、宜志富紹心、翁長林行、新城勇、湧川祐一、仲本真理、高良英一、金城園子、大嶺松雄、沖縄文化研究所、石井順子、柴田一郎、高良政勝、新里末子、當銘末子、金城節子、積田安行、宮城初枝、城間初枝、塩澤弘美、山里典子、河合朝子、山口清様(順不同) 以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。ありがとうございました。

